

学会の動き

「地盤工学会誌」の編集方針と平成24年の年間計画

三 村 衛 (みむら まもる)

公益社団法人地盤工学会 会誌部長、「地盤工学会誌」編集委員長

1. はじめに

1949年10月に発足した地盤工学会は2009年度に60周年を迎え、2010年1月号「地盤工学会創立60周年記念号」を刊行いたしました。経済の停滞と、少子高齢化の影響は学会にも波及しており、学会員数の減少、シニア会員比率の増大、若手会員数の伸び悩みといった深刻な問題に直面しております。こうした状況を打破するために、学会誌編集委員会としてできることは、月並みではありますが、読者のニーズをすくい上げ、読みやすく、幅広い層の学会員に役立つ記事を編集、掲載することへの着実な努力であろうと思います。

2. 学会誌の編集方針

学会誌改革方針については、既報¹⁾に詳しく紹介されており、その方針に沿った誌面づくりが進められています。具体的な留意点として、実務者や一般の方々に密着したテーマを選定すること、読みやすい内容に編集することがあげられます。さらに、一般雑誌とは一線を画し、地盤工学の高い技術を会員に紹介し、資料価値を有する会誌を編集、刊行することを心がけています。既に定着した感がある初級講座では、若手技術者や学生を主たる対象とし、学校で習得する土質力学が実問題にどのように役立っているのかをコンセプトとして取り組んでいます。また、学生編集委員による若い感性と興味に基づいた記事を掲載しておりますが、いずれも読者からは非常に高く評価していただいております。加えて、学生編集委員諸君も取材や編集会議を通じて、関連学協会、業界の方々との人的な交流を進めることができ、地盤工学を身近に感じていただくという場にもなっています。学会誌の内容について、毎号読者モニターからご意見、ご批判を頂戴しています。編集委員会では必ず個々のご意見に目を通し、特集テーマ選定から図面の質に至るまで記事の事後評価に役立てております。また取り上げてほしいテーマに関するご意見は、翌年以降の特集テーマ選定に活かすべく、参考資料としており、平成24年の特集テーマもこれを念頭に置いて決定いたしました。

3. 平成24年の特集テーマ

地盤工学会誌の特集テーマは、1年以上前に編集委員会で審議され、前年に年間計画を公表しています。平成24年の特集テーマの年間計画は表一に示すとおりです。

数年前からスタートした年2回の支部特集号も、既に中部、関西、九州、北海道、北陸、中国の6支部に

表一 平成24年の年間計画

月号	特集タイトル
1	水・食糧問題と地盤工学
2	非開削トンネル技術の現状と今後
3	自然災害予測とその活用
4	地盤技術者に求めるもの
5	支部特集号① 四国支部
6	地盤改良工法
7	岩塊盛土
8	地盤工学における試験施工とその活用
9	海外で活躍する地盤工学 —インフラ海外展開における地盤分野の取組み—
10	支部特集号② 東北支部
11	人工地盤材料の維持管理
12	第47回地盤工学研究発表会報告

担当していただいています。支部特集号はその企画から編集までを、全面的に支部にお願いしたものであり、それぞれの地域性の色濃く反映された興味深い記事が掲載され、読者モニターからも非常に高い評価をいただいております。平成24年度は5月号を四国支部、10月号を東北支部にご担当いただくことになっています。平成24年の年間計画では、地盤工学にとどまらない大きなテーマ(1, 3, 4, 9月号)と、地盤工学の現場に密着したテーマ(2, 6, 7, 8, 11月号)をバランスよく取り上げました。これらは、「中長期ビジョン/アクションプラン」に従い、読者ニーズにお応えできる内容になっていると考えております。

4. おわりに

学会誌編集委員会は、テーマの時宜性、読者の興味、読みやすさを念頭に置いた地盤工学会誌の編集を心がけております。また、各支部から推薦される読者モニターの声を聞き、幅広い年齢層、業種の会員のニーズにお応えできるように編集作業に努めるとともに、読者モニターの声を学会ウェブサイトアップし、ご批判も含めて情報のdisclosureにも努めております。特集のテーマとして取り上げる内容については、一般読者からのご要望も幅広く取り入れるようにしたいと考えておりますので、地盤工学会誌のよりよい誌面づくりに向けて、皆様のますますのご指導、ご鞭撻をお願いする次第です。

参 考 文 献

- 1) 永瀬英生：地盤工学会誌の新しい編集方針と平成21年の年間計画、地盤工学会誌、Vol. 56, No. 3, pp. 34~38, 2008.